

平成 19 年 6 月 27 日

## 自己評価結果に対する県立美術館協議会の意見（要約）と対応

平成 19 年度第 1 回県立美術館協議会（平成 19 年 6 月 18 日開催）において、平成 18 年度自己評価結果の報告に対して下記のとおり意見があった。

今後、県立美術館としては、これらの意見を自己評価システムの改善やアクションプランの見直し等に反映する。

### 記

#### 1 県立美術館協議会の意見

##### ①美術館運営

- ・「風景の美術館」としての認知度が低い、これを将来的にどう刷新すべきか検討課題である。
- ・小中高生を「将来の来館者」につなげるためには、教育委員会とのタイアップや美術館について先生方へのレクチャー、特定の就学児に招待券を配布するなど、小中高生が必ず来館しやすいしくみ作りが必要である。
- ・「ここに行けば、見たい美術関連の本がある」など、美術館の図書室としての蔵書の充実と配架のあり方を検討されたい。
- ・観覧料の見直しを図る時期に来ている。
- ・教育普及プログラムの講師に、これまで以上に地元出身のプロ作家の協力を得る。

##### ②自己評価システム

- ・美術館が取り組むべきことが明確になり、職員も意識改革が進んだことは館長の最終決断の成果と思う。

##### ③環境整備

- ・J R 草薙駅の整備事業のワーキンググループに参加して、駅前広場等に文化ゾーン（県立大学・県立中央図書館・県立美術館・埋蔵文化財研究所）をアピールする案内などを出してもらおうよう働きかけてもらいたい。
- ・駅（J R・静鉄）から美術館までの「遠さ」を逆に利用して、美術館に来るまでの道中でも楽しめるしくみを検討されたい。

##### ④地域連携

- ・県立とはいえ静岡市の中心にあるのだから、静岡市の施設への情報提供や連携して広報やイベント等を行ったらどうか。

## 2 県立美術館の対応

- ・「風景の美術館」を継承しながら、例えば「自然」といった観点から広報を展開する。また、インパクトのあるテーマ性を切り口とした展覧会を企画し、一層情報発信に努める。
- ・館内全部門の責任者が参画する広報戦略会議を活用し、効率的・効果的な広報に取り組む。
- ・「将来の美術ファンづくり」として、鑑賞系・実技系の両面から小中高生の教育普及プログラムの充実を図る。また、美術館の新しい楽しみ方を提案していく。
- ・恵まれた自然環境を生かした賑わいを創出するため関連機関や団体との連携を強め、観光と連携した国内外からの来館誘導に取り組む。